

明治十六年十月刊行

施行歌

喜樂舍藏版

はしがき

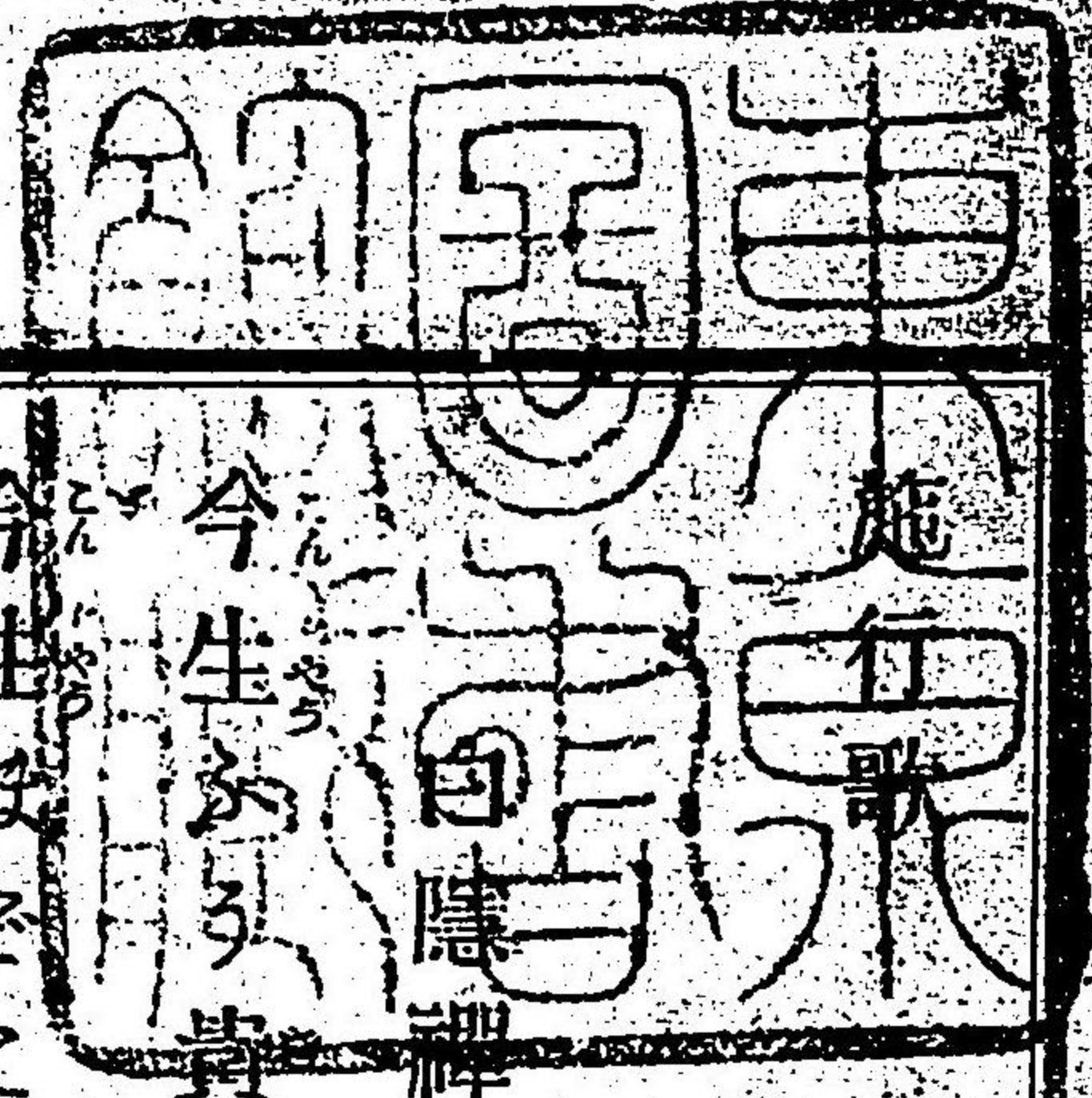
抑も此施行歌は白隠和尚が諸人に施行を勧め窮民を救ふの一助とあさん爲に作られたるものにして其言甚た近けれども三世に亘りて善惡應報の理を盡せり今や文明の隆時に際し施行の道も大に開け三寶供養の勿論養育院育兒院罹災救助より遠く外國の民をも救ふの便宜あり乞願くは世人此歌と讀で益々固有の慈善心と誘起し應分の施行と致さるべし是則ち菩薩六度中の檀波羅密の楷梯なればなり

施行歌

白隠禪師 述

今生ふう貴するひとは  
今生ほどことせぬ人の  
利口で富貴が成ならば  
利口で貧乏するを見よ  
未來は此世のたね次第  
時たね大小あるゆへぞ

前世に時をく種がある  
未來は極めて貧なるぞ  
鈍なるひとはみな貧か  
この世は前世の種次第  
富貴も大小あることハ  
此世は僅のものなれば



施仁歌

白隠禪師述

はじがさ

抑も此施行歌は白隠和尚が諸人に施行を勸め窮民を  
救ふの一助とあさまを爲に作られたるものにして其言  
甚だ近けれとも三世に亘りて善惡應報の理を盡せり  
今や文明の隆時に際し施行の道も夫に開け三寶供養  
の勿論善育院育兒院罹災救助より遠く外國の民をも  
救ふの便宜ありを願くは世人此歌を讀んで益々固有の  
慈善心を起し應分の施行を致さるべし是則ち菩薩  
六度中の檀波羅蜜の格様なり

今生ある貴するひとは  
今生はとことせぬ人の  
利口で富貴が成ならバ  
利口で貧乏するを見よ  
未來は此世のたぬ次第  
時たね大小あるゆへぞ

前世に時をく種がある  
未來は極めて貧なるぞ  
鈍なるひとはみな貧か  
この世は前世の種次第  
富貴も大小あることハ  
此世は僅のものなれば

よゝい種たね擇えらんで蒔まきたまへ  
 穀物こくぶつ取とるためとなし  
 麥稗むぎひえ取とるためとなし  
 五升ごしょうや一斗いっとうは實みのるぞや  
 果報くわいほうは倍々ばいばいあるものぞ  
 果報くわいほうも多おほくと計はかり志しれ  
 施ほどこせよとすゝめたり  
 救すくふこゝろと發おこすべし  
 有あは有あはどたらねもの

種たねを惜おしみてうへざれば  
 田畑たはたに麥稗むぎひえまかずして  
 麥むぎひえ一升いっしょうまきをけば  
 志しかれば少すこくの施ほどこしも  
 いはんや施ほどこし多おほければ  
 それ故ゆゑお釋迦しやくかも觀音くわんおんも  
 さすれば乞食こつじき非人ひにんまで  
 各おの／＼富貴ふきで持もちたから  
 多おほくの寶たからをゆづるとも

持もち子が持もちねば持もちぬもの  
 持もち子はあつはれ持もち者ものが  
 ひとを倒たふさせ施せ行ぎやうせよ  
 我わが子こに讓ゆづりて怨あだとなる  
 ゆづる我わが子こが沈しづみさる  
 筆ふでの非道ひだうは忘わすたまふか  
 あまり非道ひだうか利りを取とるな  
 其身そのみは三途さんづに落おち入りて  
 非道ひだうは子孫しそんの害がいとなる

少すこくも田畑たはたゆづらねど  
 我わが子この繁昌はんじやういのちなら  
 人ひととたとして持もちたから  
 ひどの恨うらみのかゝるもの  
 ますや秤はかりやそろばんや  
 つね／＼商あきなひする人ひとも  
 死しんで三途さんづに入る事ことぞ  
 屋敷やしきは草木くさきが生おひまげ  
 親おやの惡事あくじが身みにむくふ

世間の數く有ものぞ  
 親が惡事をせぬゆへぞ  
 ますく重恩思ひこれ  
 わらひ風をも厭ひとぞ  
 親を思ひぬさろかさよ  
 鳶やからすに劣りたり  
 惜むたからいなき物ぞ  
 ろの金出して施行せよ  
 これに勝れる善事なし

一門はん昌することば  
 もと又親にはなれなば  
 子を慈しむおやごころ  
 それ程親におもひれて  
 おやに不孝を人くいの  
 娘むす子を志つけるに  
 親の後生のためならば  
 飢死ぬひとを助けおば  
 たとい万貫長じやでも

死で身につく物のなし  
 捨て冥途のたびたちぞ  
 耳も聞えず目も見えぬ  
 闇をやみぢに入る事ぞ  
 とかく命のあるかぎり  
 命はもろきものなれば  
 今宵頭つうが仕初めて  
 強い自慢をするひと  
 けふの他にんを葬禮と

つまも子供もせに金も  
 冥途の旅立するとき  
 行衛志らざに門をいで  
 その時後悔かぎりあり  
 菩提の種をうへたまへ  
 つゆの命となづけたり  
 さう死一生あるもあり  
 暮に頓死をするもあり  
 明日のわが身の葬禮と

然れば頼みなき娑婆に  
 富貴さいはいある人の  
 貧者に施せぬひとの  
 狗でも口はすぐるぞや  
 慈悲善根のそのまゝに  
 慈悲善根をすむひとは  
 天魔外道はよりつかき  
 能く料簡せらるべし  
 餘りどう慾目にあまる

金銀たぐひへ何にする  
 貧者に施せらるべし  
 富貴で暮す甲斐もなし  
 飢人貧者をたすくべし  
 いへ繋るいの御祈禱が  
 神やほとけに守られて  
 然れば祈禱に成まひか  
 恵はどことあらぬとい  
 飢死ぬ貧者を見ぬ振に

くらすとゝるは鬼神か  
 子孫繁じやう長からじ  
 施行で借錢志はじめよ  
 上たる人をはじめとし  
 われもくと共に  
 貧者のいのち救ふなら  
 平生貧者にうやまわれ  
 ひとの喰物すつるのき  
 前世に蒔種たらぬゆへ

慈悲善根のあまひとい  
 寶の餘りのなきものぞ  
 夫こそまことの信心よ  
 頭だつたるひととくは  
 厚く施行に身を入れよ  
 廣大無への善事あり  
 身につく果報有まいか  
 好んで拾ふて喰ものい  
 是非なく袖乞する事ぞ

かゝる有様見ながらも  
 鬼にも角にも人として  
 この節信心おこらねば  
 きのく仁心起らぬか  
 信心かければ人てなし  
 全く牛馬にことあらき

○道歌七首

誰もみお身をつみてこそ思ふべし  
 慈鎮和尚

いのちは惜ぎものと志らきや

あわれみきものにはほごす心より  
 覺如上人

外にほとけのすがたやゝある

地獄といまなこの上のつるしもの  
 道元禪師

思ふまゝにこそいふに非をわくらせて  
 無兼神師

あまの近くて見えぬまのけり  
 われと地獄へつまがとすなり

慈悲の目にはくもと思ふ人をなき  
 眞阿上人

つみある身こそ猶あわれまひ

世のあかぬ市のかりやの絶くは  
 夢想國師

ひとりくはにかへりこそすれ

ひと口にのみたる水のつりたさを  
 面山和尚

人のとふともいかにとたへん



かゝる有様見ながらも  
兎にも角にも人として  
この節信心おとらねば

をのく仁心起らぬか  
信心かければ人てなし  
全く牛馬にことからず

○道歌七首

誰もみか身をつみてこそ思ふべし

慈鎮和尚

いのちは惜きものと志らさや

あわれみをものにはほとす心より

覺如上人

外にほとけのすがたやハある

地獄といまなこの上のつるしもの

道元禪師

思ふまゝこゝろに罪をつくらせて  
あまり近くて見えぬかりけり

無難禪師

われと地獄へつさおとすなり

慈悲の目ににくとと思ふ人ぞあき  
眞阿上人

つみある身こそ猶あわれあり

世のあかり市のかりやの絶く  
夢想國師

ひとりくにかへりこそすれ

ひと口にのみたる水のつめたさを  
面山和尚

人のとふともいかゞこたへん



明治十六年九月廿五日御届  
同年十月出版

(定價貳錢)

編集兼出版人

愛媛縣平民

山本貫通

東京築地三丁目百廿四番地寄留

賣捌所

東京本所區外手町卅九番地  
同京橋區卅間堀町河岸  
同同區南鍋町一丁目六番地  
同淺草區北松山町二十七番地  
同西醒井通花屋町上丸東側  
同花屋町西洞院西へ入丸  
其他各地書林ニテ賣捌申候

新報社  
明治教社  
鴻盟九郎  
伊藤清九  
片山專助  
永田調兵衛

○安心ほこりたゝき

神機獨妙白隱禪師述  
定價三錢郵稅二冊迄貳錢

右は白隱禪師が佛說五時の大略より殊に易行易修の他力念佛を信せしめんがためアホダテ經の句調を以て説述られたる女子供にも讀やすき平假名附の小本なり  
右は施行歌同様各社書林にて取次賣捌仕候なり

019573-000-7

特16-336

施行歌

白隠／述

M16. 10

ABG-0347

